

新制作座だより

vol.9

2016 WINTER

<http://www.shinseisakuza.com>



2016年 元旦 新制作座 新春の集い

「新年のご挨拶」

新年明けまして
おめでとうございませす

皆様には、穏やかな新春をお迎えのこととお喜び
申し上げます。

65周年記念の年に多くのご友情と応援を頂きましたこと心より御礼申し上げます。

昨年は、世界全体が震撼するような事件が起こったこと、日本も難しい問題を多数抱え心痛むこと心配することの多い年ではなかったかと思えます。私たち劇団も悲喜交々の年でありました。

昨年のクリスマススイブから深夜に『クリスマススの約束』という、小田和正さんの歌の番組をテレビで見ました。その中で、小田さんが歌った、ピーター・ポール&マリー「Cruel War(悲惨な戦争)」その美しいサウンドに心奪われると同時に大きな感動を覚えました。この歌を作った、ピーター・ポール&マリーの心に小田和正の心が重なって戦争に対する痛烈なアンチテーゼをあくまでも優しい旋律と澄み切ったサウンドで表現しつくしたところに、この歌の最大の芸術性があるとおもいました。作曲者と作詞者の意図が歌手の喉から声となって人々の心の中に浸透していく様を目の当たりにして、歌の持つ力に改めて感じ入りました。

私たちの演劇も美しい物語、観る人々の心にしみる舞台を目指したいと深く考えています。この世界の混乱を収束させるために、心に浸透していく平和へのメッセージと人と人とが認めあえる社会の実現のために、人間讃歌の思いを込めて今年作品創造に向かい合いたいと考えています。

皆様のご家族にとって素晴らしい一年となりますようにお祈り申し上げます。

2016年 1月

NPO法人劇団 新制作座

眞山 蘭里

新春の集い

— 2016年 元日 —

過

去を振り返ると新制作座の新年会はめでたい屠蘇気分
に浸るよりも、何か張り詰めた緊張感で迎えた時の方が多かった



「新制作座賞」を受賞した木村幸子さんと「アンサンブル賞」を受賞した山形久人さん



山形さんが腕によりをかけておせち料理を囲んで新年の宴

ように思います。これは劇団が歩んできた厳しい歴史を物語っています。

所が、今年は会の冒頭に山形久人君と木村幸子さんに新制作座賞が贈られて一気に喜び溢れるめでたい幕開けとなりました。二人とも各々舞台監督と女優でありながら一専多能の働き者、文字通り八面六臂の大活躍で、劇団のみならず星槎高尾キャンパスにもなくてはならない存在で、誰もが待ち望ん

「星槎国際高等学校」

八王子学習センターセンター長

『感動のそばにいつも』

新年あけましておめでとうござい
ざいます。

八王子学習センターのある星槎高尾キャンパスは、新制作座(劇団)と星槎(学校)が、日本で唯一、共同で生活をし、共に育んでいる施設です。劇団の皆さんには、本校に通う生徒への授業はもちろんのこと、演劇を通じた特別活動の一環としても、様々な角度から関わっていただいております。

昨年は、劇団65周年公演や地方

でいた嬉しい受賞でした。

折から射し込む好天の初日影の中、宴は盛り上がり、続いて行なわれた出席者全員の今年の抱負発表も活気に溢れて、明るいお正月との度を深めるこの頃ですが、わが新制作座は、揺るぎない楽天性を武器として元気に2016年の野面を走り続けようと決意を新たに
した新春の集いでした。

(記:込山虔二郎)

青柳丈士先生より

遠征等へ教育プログラムの一環として同行させていただき、大きな成長を遂げた生徒がおりました。



新制作座65周年記念祝賀会にて、受付を手伝っていただいた星槎卒業生と在校生
力強い応援をありがとうございます

行くぞ東北!



『第6回 東北応援プロジェクト』
企画のご提案を募集中!

2016年 東北応援 特別企画
公演「泥かぶら」は、ただいま公
演地を検討しています。

「ここに呼びたい!」

「一緒に被災地を

盛り上げていこう!」

など、企画のご提案もお待ちし
ております。

新制作座一同



2015年1月18日 第5回「東北応援プロジェクト 宮城県岩沼
公演」にて、千年希望の丘の慰霊碑で黙祷を捧げました

心から感謝申し上げます。

おかげさまで、生徒数は、現在175名(12月1日付)前年度同時期(134名)まで増加し、次年度は200名を超えるところまできております。今年も劇団と学校が共に成長し、更なる飛躍の年となればと考えております。

生徒たち一人ひとりが輝ける環境づくりのために私たちは前進し続けます。劇団新制作座の皆さま、そしていつも支えてくださる応援団のみなさま、本年もどうぞよろしく申し上げます。

「泥かぶら」

職員室の椅子に腰掛けただけなんです

― 栃木県立 矢板・矢板東高等学校 芸術鑑賞会 ―

― 昨年の秋の事です。泥かぶらの資料を栃木県下の高等学校に郵送して、芸術鑑賞会担当の先生方に一本一本お電話して、矢板高校のU先生にお会いできる事になりました。

職員室に通されすめられた椅子に腰掛けた瞬間。「来年の芸術鑑賞作品に決めましたので、お願

いします」と申されました。

泥かぶらをご存知でないU先生の確信に満ちた決め手は何だったのでしょうか。さまざま資料が段ボール箱いっぱい届き、全部に目を通す事ができずに担当の先生は閉口しているとよく聞きます。なのに、涼やかな瞳で「パンフレットを拝見しました、作品に期待できると感じました」と、優しく微笑むU先生。

打ち合わせの後は、「この道の駅の蕎麦屋が美味いのでお勧めするよ」と談笑。

時が流れ、10月15日の公演日になりました。終演後のU先生の笑顔と力強い握手。まだ、あのお蕎麦屋さん行けてないんです(笑)と、私。何か懐かしいような、ほっこりとあたたまる思い出の公演となりました。(記・小津和知穂)

「泥かぶら」

みちのく仙台へ

― 宮城県 宮城学院中学高等学校 芸術鑑賞会 ―

劇

団創立65周年記念の東京公演を終え、秋も深まった10月19日、仙台市の高校の生徒さん

たちと泥かぶらの舞台を創ってきました。

前日に仙台の眞山青果先生の文学碑に全員で訪れ、夕食は新制作座創立以前からご縁がある「おでん三吉」で、きりたんぼ鍋をいただき、若い劇団員に新制作座の歴史の一部を伝える事が出来ました(おでん三吉とのご縁はまたの時間にお伝えしたいと思います)。

この公演は今年1月の東北応援岩沼公演に担当の先生方が下見に来てくださり、うちの生徒たちに是非にと決めてくださいました。会場は豊かな自然の中にあるキャンパス内の講堂。立派な劇場でしたが建設から30年以上経っていた



前日に仙台の眞山青果先生の文学碑を訪れました

ために緞帳幕が使用できなく変則な方法で幕をあげました。1000人近い女子生徒さん、どんな客席を創ってくれるのか楽しみにしていました。幕開きから乙女らしく細やかな反応をしながら好い客席を創ってくださいました。

荷降ろし、積み込が少し大変でしたが何事も無く終了し、生徒たちの健やかな成長を願い、次の公演地の群馬県みどり市に向け移動しました。(記・山形久人)

「泥かぶら」

芸術に接する事の必要性

― 群馬県みどり市 芸術鑑賞教室 ―

4年前、初めてみどり市の市長さん長室を訪れた時、市長さんの若さと迫力に圧倒されました。さながら現代の坂本龍馬を見た思いでした。私は無我夢中で学童が芸術に接する事の必要性を語りました。終には眞山美保先生の文章まで読みあげてしまいました。

何日後に市の教育課長さんと主事さんが藤岡市の公演先に



終演後、笠懸野文化ホールのロビーにて

派遣されて「泥かぶら」の下見をされました。こうして実現した1回目のみどり市公演は大成功で、中学生の鳴りやまぬ拍手で会場は沸き立ちました。そして3年後の新しい中学生のための公演を約束しました。

その後私は病を得て半身不随の身体になりましたが、劇団員の車で再度市長室を訪れた時、かつての青年市長さんは今や堂々たる大市長になられて2階の市長室からの階段で私をおんぶしてあげようといわれました。もちろんご遠慮申しあげましたが、わざわざ玄関の車寄せまで送って

ださいました。

課長さんは市の教育長、主事さんは教頭先生になられていました。2015年10月22日、2回日のみどり市公演が実現しました。感想文を読むと「泥かぶらの変貌する姿に共感する」という生徒さんが多かったようです。かくして3年に1度の芸術鑑賞が市の条令で決まったそうです。

みどり市の益々のお栄えと文化の向上を祈ってやみません。

(記・福島まゆみ)

「朗読 泥かぶら」

朗読劇の

無限の可能性

— 広島県立上下高等学校 —

白 壁の道で有名な上下町。朗読劇「泥かぶら」班6名は、歴史的景観を眺めながら紅葉の中を上下高校へと進みました。

演劇ワークショップとの二本柱の予定でしたが、急遽1週間前に、朗読劇「八郎」を追加。両作品とも演者は初披露の作品で、フルサイズの舞台と同様、綿密な調整を本番ギリギリまで続けました。

高校生に絵本ベースの朗読では



11月5日、広島県立上下高等学校に向かう道中にて

物足りないのではないかとという心配もありましたが、不思議と絵を1枚めくる度に前のめりに聞き入ってくれる生徒さんの姿が印象的でした。バイオリン生演奏の響きも、両作品の世界観を豊かに広げてくれました。

朗読劇「泥かぶら」は今後研究を重ねるほど、作品を面白く見せられると確信しました。舞台の縮小版としての朗読劇ではなく、たった1枚の絵から、声と音楽によって、観客の想像力を刺激し、物語の世界を無限に描きだせるような、新しい魅力の表現の形を目指していけたらと思います。

(記・上杉綾)

「泥かぶら」

年月をかけて実った 熱い思い

— 新潟県燕市 中学校5校の
芸術鑑賞教室 —

待 ちに待った新潟県燕市の公演が実施されました。待ちに待ったというのは、実に4年の年月をかけて多くの人々の熱い思いで実った公演だったからです。



5つの学校の体育館に上演ごとに舞台設営をします



体育館の窓に暗幕を張る作業

その発端は、30〜40年前には毎年のように田植が終わった頃に公演に行っていた新潟を再開拓しようと思いたったところから始まりました。

まず思い浮かんだのは、食堂部の藤川さんが燕市の自主公演のさい、切符のことや宿舍までお世話になった当時の市会議員で議長もされていた大山治郎さんのお顔です。

4年前の11月、雪が降る前にと、藤川さんと私と山形さんでお会いしに行き、80才半ばを過ぎた大山さんが温かく迎えてくださいました。そして「泥かぶら」を観られたことのある教育次長の斎藤さんにご担当いただくことになりました。ですが毎年計画を重ねながら、なかなか実現せずにおりました。そして昨年度、中学校5校のそれぞれの体育館で、3校は「絆」という行事にあて、学区の小学6年生と共に観るという案で、実に4年をかけ、10月16〜20日の5日間の公演となりました。

各学校の体育館は大きさも作りも違い、若い演出部にはとても良い勉強の場となりました。今回、星槎国際高等学校八王子学習セン

ターに在籍する佐藤さんと北野くんがインターンシップとして加わり、若い力を発揮してくれました。客席の生徒さんたちも実に真剣に舞台と向きあい「泥かぶら」から色々なものを吸収してくれていると感じました。

中学生の時にご覧になったという鈴木市長さん、上原教育長さん、総務部長になられた斎藤さん、教育委員会の皆さんも会場に駆けつけてくださいました。

この公演が決まった時、闘病中の藤川さんと皆で乾杯しました。その1ヵ月後、桜満開の日に藤川さんは逝ってしまいました。5日間連続の体育館公演の無事を天国で見守り、喜んでくれていると思います。

(記・木村幸子)



5日間公演を終えインターンシップの高校生たちと

「泥かぶら」 2015千秋楽!

―栃木県佐野市第4回
こども芸術鑑賞会―

第一回から続いて来た4年目になる佐野公演がやってきました。

毎年、佐野市の生徒たちはしっかりと観劇しますし、千秋楽ということもあり緊張気味の中で幕が開きました。

そして、今回で「泥かぶら」の公演メンバーから外れる惣兵衛役の永峰三久さんの最後の舞台でもありました。

永峰さんはちょうど2年前の佐野公演から惣兵衛役を演じ、丸2年間の「泥かぶら」の舞台を共に過ごしてきました。私は二幕で絡むところがああり、いろいろと協力していただきました。

連絡係の私が彼にeメールなどをすると1番に返事が返って来て、本当に律儀な方だと感心し、安心していました。

そして2回公演の最後の舞台、岩花の場面を私は袖で観ながら、もうこれで永峰さんの惣兵衛さんが見られなくなるのかと改めて感

じ、残念に思いましたが、またいつか一緒にお芝居ができることを楽しみにしたいと思います。
永峰さんお元気で！心に残る千秋楽でした。

(記・亀川忠助)



いただいた佐野のおみやげ



2015年11月26日、千秋楽を無事にやり遂げることができました

「イベント」

若者の可能性

— 星槎国際高等学校八王子
学習センター文化祭 —

星

星槎八王子の生徒が企画主催する文化祭「星槎フェスタ2015」が11月21日に開催されました。

劇団員も前日まで新潟県燕市の中学校5校を巡っての「泥かぶら」公演を終えて駆けつけました。

当日朝、野外ステージの飾り、音



高尾キャンパスで開催された文化祭の来場者は400人を越えました



音響担当の平さん

響設備の設置などお手伝いさせていただきました。野外ステージでは、バンド・ダンス・討論会・弾き語り・コンテストなど、多彩なパフォーマンスも年々充実してきている感想を持ちました。若いエネルギーの爆発が目立つものから、演奏者(パフォーマー)の内なる世界を外へメッセージとして伝える力が増してきたと思います。

同時代に生きる者たちが、互いの相違点を認め合い、共感、共鳴するものを見いだし、既存の大人社会へ挑戦しようとする若者らしい気概(無鉄砲さ)さえ感じました。

この若者たちの可能性を、よりよい未来社会に役立てるために我々大人は考えなければならぬと思います。

(記・斉藤平)

TOPICS

富士吉田温泉 一泊二日の旅

— 新制作座慰安旅行 —

何

かと忙しかった2015年。楽しみにしていた旅行の日を迎えられました。

11月29日(日)昼出発。今回は福島まゆみさんも車椅子で参加するといううれしい旅! 幹事でもある山形久人さん運転のチャーターバスにて、まず忍野八海へ。思ったより狭い範囲に存在していたのが驚きで、富士山からの豊かな伏流水は、それぞれの池が地下で繋がっている神秘と合わせ清冽であった。

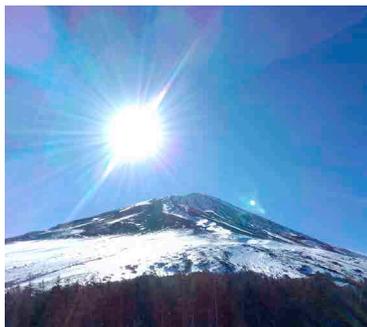
宿は鐘山苑(かなやまえん)、富士吉田にあるこの温泉宿の魅力は10階にある露天風呂。湯舟につかりながら目の前には大富士の絶景! 生まれて初めての体験。翌日は富士山五合目までのバス登山決行。予報より良く晴れて寒風の中で富士の懐に抱かれた感覚は、言葉につくせない。

河口湖畔に佇むギャラリー、人形作家・与勇輝(あたえゆうき)館の見学もとても強く印象に残る。

思えば50年前に劇団員百数十



河口湖畔にて



五合目からの富士山

名で千葉館山へ旅行、というより合宿に近い休日を過ごした夏の日々が蘇る。先輩が釣ってきた新鮮なアジを、たたきにして食べ、海にもぐり、松林を逍遙したあの日……。劇団員が眼いっぱい楽しく過ごせるルーツの1つを思い出した。感謝!

(記・原泰賢)

メリー・クリスマス

12月19日、一足早く新制作座のクリスマスパーティーが開かれました。



「Mary's boy child (聖母マリアの子)」の合唱



子どもたちにプレゼントを贈るサンタクロース

男性たちの手で美しく色とりどりに飾られた部屋がすでに物語を紡いでいます。集まった方々も2才から85才と多彩で、新制作座聖歌隊も16才から79才まで。

天使が現れ、サンタもかけつけて楽しい会が進みます。お料理もテーブルの足が折れるほどの盛り沢山とおいしさ。イエス・キリスト生誕のお祝いは、一つの宗教を越えて、全世界の人々の願いと愛の日になっていると改めて感じました。

参加者全員のプレゼント交換には「今年の私の3大ニュース」を書いたカードを添えていただきましたが、それぞれに個性的な心のメッセージになっていて、その方の人生や人柄が光を放っているように胸打たれました。

スライドショーの最後に聴こえてきた眞山美保先生の声「のぼる道は十字架にありともなど悲しむべき、主よみもとに近づかん」

なつかしく楽しい会でありつつ、なおこれからの生きる道をさし示してくださいような会でありました。メリークリスマス！来年もまたお会いしましょう。

(記・江崎はんな)

なごみの の コラム

— 黒猫兄弟「小太郎、小次郎」のご紹介 —
「どっちが コタ？ コジ？」
(聞き取り: 山形 久人)

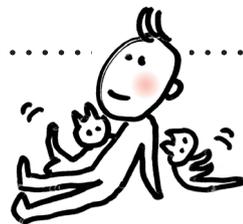


Illustration: Chiho Koduwa

始めまして、僕たちはもうすぐ1歳になる兄弟です。去年の3月に高尾にもらわれて来てから、みんなに愛されてる人気者です。

兄の僕は食べる事が好きで運動が大好きで好奇心もいっぱいあります。でも部屋の外に出ることを許されていないので少し欲求不満になっています。今一番の願いは広いお外で思いっきり走りまわり冒険をすることです。

弟の僕は運動が苦手です。そのため少しメタボ気味になっていて周りの人たちから運動をしなさいといつも言われます。人の姿や声が聞こえないと不安になるので少しでもみんなの近くにいたいのです。そして、僕はママの膝の上で眠るのが一番の幸せです。

こんな風に性格は違いますがとても仲良しの兄弟です。見分け方は身体のスマートな方が兄の小太郎、少し太めの方が弟の小次郎です。高尾キャンパスに来た時は可愛いがってください。



山形さんと、小太郎(左) 小次郎(右)

2016年 新制作座公演スケジュール

[泥かぶら]

- 2月 2日 淑徳中学 高等学校 会場:板橋区立文化会館
- 4月 23日 公開舞台稽古 会場:星槎高尾ホール
- 5月 10日 新潟県五泉市 会場:市立五泉中学校体育館
30、31日 群馬県 某市教育委員会*
- 6月 7、8日 明治学園 小・中・高等学校 3回公演 会場:講堂
9、10日 九州高校*
15日 東海大学付属浦安高等学校
- 7月 8日 東京都内 某私学高校*
- 9月 7、8日 愛知県 某県立高校*
27、28日 公開舞台稽古 会場:星槎高尾ホール
- 10月 3～6日 宮城県大崎市 6回公演 会場:大崎市民会館
- 11月 7～11日 広島県～愛知県*
21～25日 栃木県～群馬県*
26日 福山市 実行委員会*
- 12月 2日 和歌山県 広川町*
3、4日 関西公演 一般公演*

(*)印:企画検討中

新人募集について

2016年 新制作座では、眞山美保作品の戯曲の再演を目指して、新しい俳優・スタッフを募集いたします。詳しくは、2月の新制作座webサイトをご覧ください。

—— * 同封の郵便振替の用紙について * ——

賛助会費のお願い

NPO法人 劇団 新制作座の賛助会費の振込用紙を同封させていただきました。2016年も引き続き、ご理解とご支援を賜れますようお願い申し上げます。

東北応援特別企画「泥かぶら」 公演支援金のお願い

平成27年度は、65周年記念祝賀会、日本橋公会堂での記念公演などのため、東北応援の公演は来年度に持ち越して実施したいと思っています。

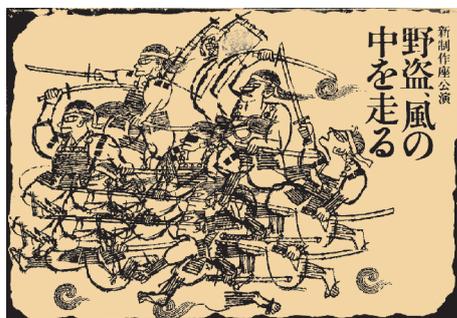
今年度分の寄付金は、現在71,000円あまりで、公演経費に遠く及ばない額となっています。

ぜひ、東北応援の公演が続けられますよう、ご支援ご協力をよろしくお願いたします(すでにご寄付頂いた方には重複いたしますことご了承ください)。

N E W S

「野盗、風の中を走る」

2016年 新制作座は、眞山美保 作 演出「野盗、風の中を走る」(1957年発表)の再演を目指して活動を始めます。俳優・スタッフの募集、その他の情報は、新制作座webサイトに随時発表いたします。応援よろしくお願いたします。



1957年 ポスター
(デザイン:粟津 潔)

編集後記

晴れのお正月、静かに澄みわたる空を眺めながらフワフワに積もった落ち葉のなかをザクザクと進む。

ここ高尾キャンパスの敷地は、すり鉢状になった林の丘に囲まれて自然豊かな場所です。丘の上にはかつて劇団創設者 眞山美保先生の邸宅があり、劇団員は「山の上」と呼んでいます。

その山の上に登って行けるスロープ状のゆるやかな林道を通り、上に着くころには、この時期豊かな広葉樹の落ち葉で埋めつくされているのです。静かな中にカサカサと自分の足もとの感触がなんとも

心地よく、毎年のひそかな楽しみです。

この林道は「スカイライン」と呼ばれていて、道の周辺は、ごく自然のままの植生のように見えて、所どころ計算された美しさを感じます。春にはシャガやオオデマリが咲き、夏にはヤマユリ、紅葉のころはカエデの濃淡に感動し、これからはさまざまな椿が色を添えることでしょう。ここを創設した方々の愛情を感じ、今年もこの豊かな自然に感謝して過ごしたいと思います。(制作担当:松原 ふみこ) 次の「新制作座だより」は、2016年4～5月に発行予定です。

 劇団 新制作座

[新制作座だより] 第9号 2016年1月1日 発行

発行: NPO法人 劇団 新制作座 〒193-0826 東京都八王子市元八王子町2-1419

tel: 042-661-0001 fax: 042-661-6702 e-mail: info@shinseisakuza.com